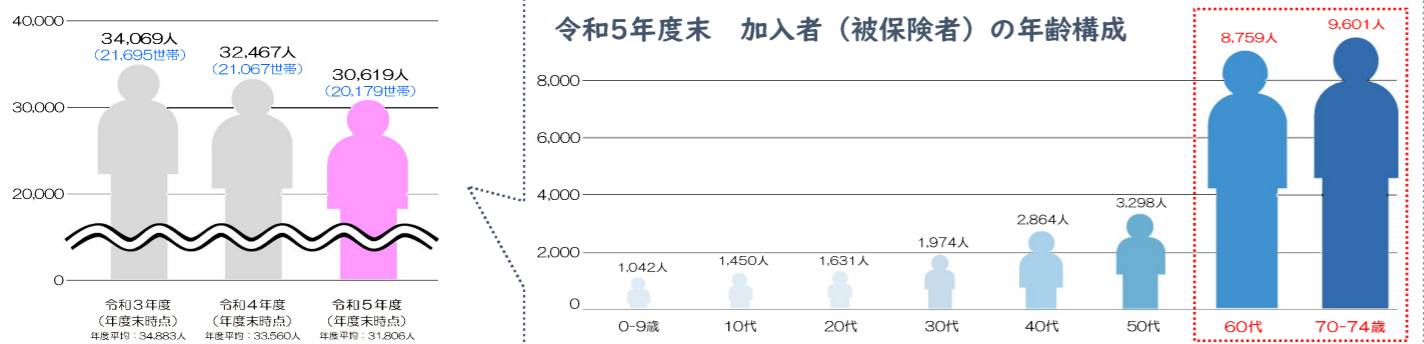




磐田市 国民健康保険 令和5年度 医療費分析の共有

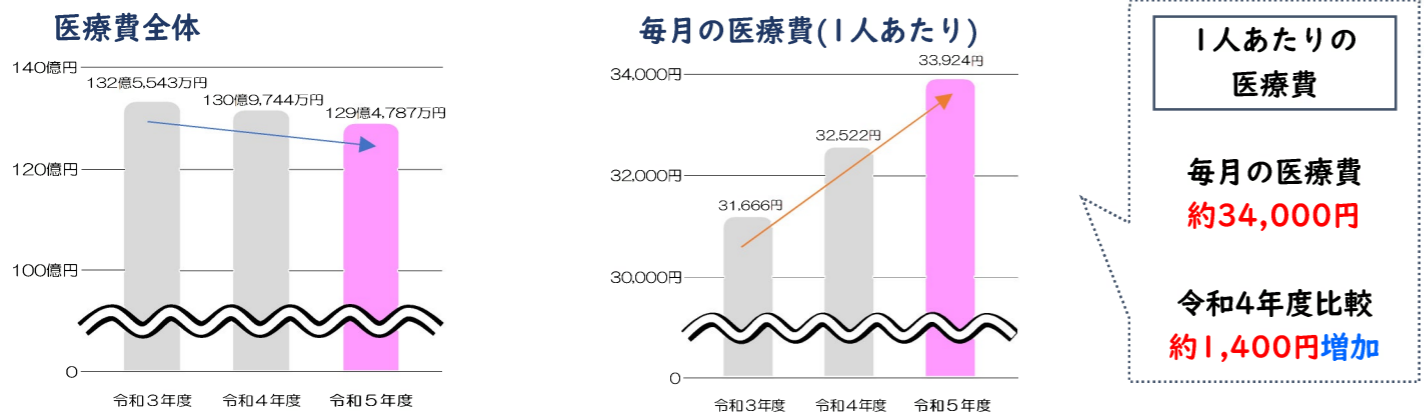
国保被保険者の推移

※60代以上が全体の約6割を占める



令和4年10月からの社会保険適用拡大や団塊世代の後期高齢者医療制度への加入等により、国保被保険者数は減少しています。令和4年度と比較して**1,848人減少**しました。 ※（ ）内は世帯数

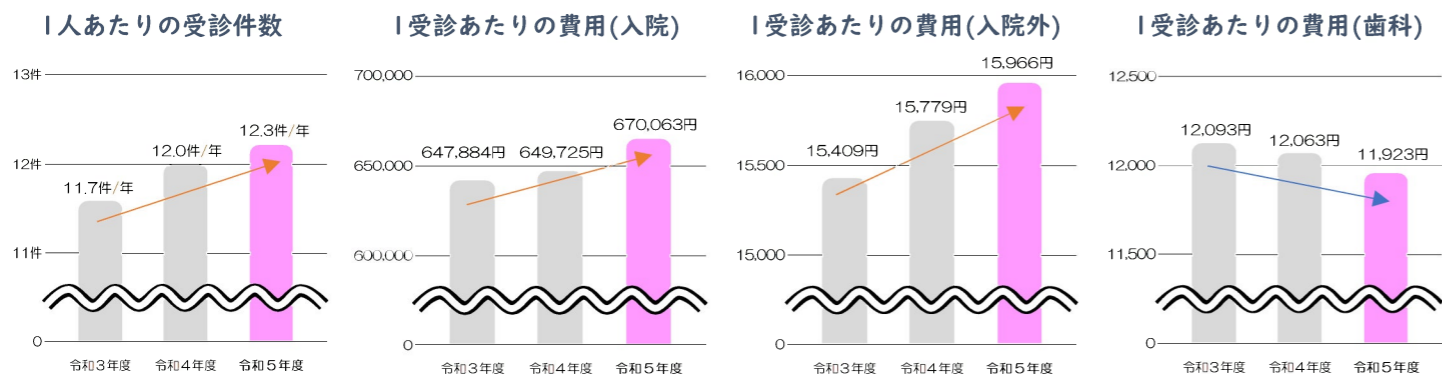
医療費の推移



国保被保険者数の減少に伴い、医療費の総額は減少していますが、被保険者の高齢化や医療の高度化の影響もあり1人あたりの医療費は増加傾向です。

令和4年度と比較して1人あたりの医療費は約1万7千円（月額約1,400円）増加しました。

医療費の詳細について

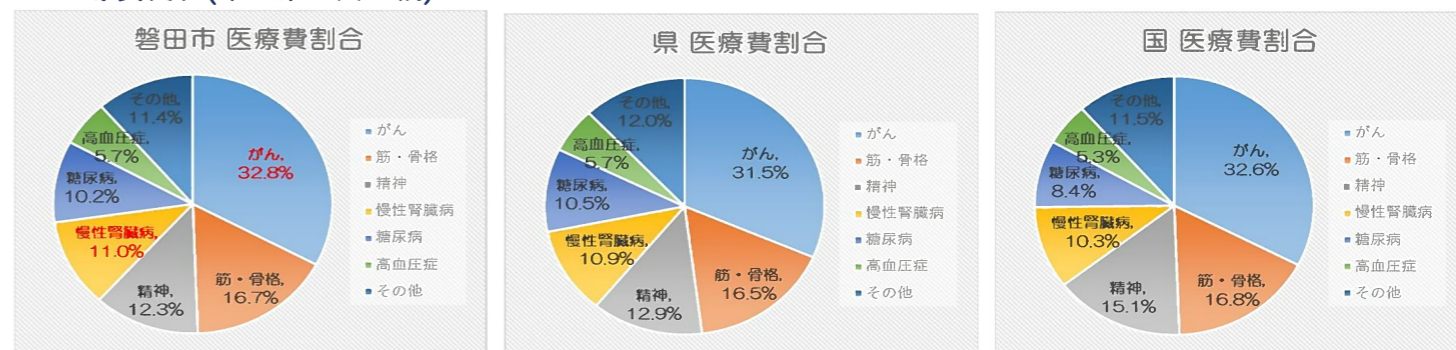


国保被保険者数は減少していますが、1人あたりの受診件数は増加、1受診あたりの費用について、入院・入院外は増加、歯科は減少しました。

医療費にかかる疾病割合

医療費割合(市・県・国比較)

※KDBシステムより最大医療資源傷病名による抽出、調剤報酬を含む



「がん」を除き、医療費上位疾病すべてが生活習慣病関連の疾病です。医療費の疾病別割合を国及び県平均と比較すると「がん」と「慢性腎臓病」は高く、「精神」は低い結果です。

【参考】令和5年度 医療費(入院+外来)疾病ランキング (KDBシステム医療費全体を100にしたときの% ※電子レセ集計)

1位	慢性腎臓病 (透析あり)	6.0%	約7億8千万円
2位	糖尿病	5.4%	約7億円
3位	関節疾患	3.4%	約4億4千万円

※金額については、令和5年度の事業年報医療費額で想定した場合の費用額です

4位	高血圧症	3.1%	約4億円
5位	統合失調症	3.1%	約4億円
6位	肺がん	2.8%	約3億6千万円
7位	不整脈	2.7%	約3億5千万円
8位	脂質異常症	2.2%	約2億8千万円
9位	うつ病	1.9%	約2億5千万円
10位	骨折	1.7%	約2億2千万円

生活習慣病関係について

※しずおか茶っとシステムより最大医療資源傷病名による抽出

予防可能な生活習慣病にかかる該当者数と費用について (磐田市 疾病該当者率ベスト3)

1位	高血圧症	2,512人	(該当者率: 約 7.8%)	R5: 約 6億3千万円
2位	糖尿病	2,064人	(該当者率: 約 6.4%)	R5: 約 3億5千万円
3位	脂質異常症	1,711人	(該当者率: 約 5.3%)	R5: 約 5億5千万円

※ 国保被保険者100人に約8人が該当 ※ 国保被保険者100人に約6人が該当 ※ 国保被保険者100人に約5人が該当

【参考】
全体 6,767人
(該当者率: 約 20.9%)
R5: 約 16億円
※ 国保被保険者10人に約2人が該当

【参考】生活習慣病に関連する病気はどれくらいの医療費がかかっているか? (1人あたりの年間医療費概算と年度末患者数)

糖尿病	高血圧症	脂質異常症	高尿酸血症	脂肪肝	動脈硬化症	脳出血	脳梗塞	狭心症	心筋梗塞
2,064人	2,512人	1,711人	57人	29人	15人	17人	157人	195人	10人
約30万円	約14万円	約14万円	約8万円	約28万円	約93万円	約580万円	約90万円	約65万円	約290万円

内服と注射で金額差あり ※生活習慣病に関する病気は上記疾病以外にもあります ※実際には様々な病気や治療が複雑に重なり医療費は1人1人違います ※令和5年度の医療費に対して、年度末(令和6年3月末)時点の患者数で算出した場合の目安金額です ※しずおか茶っとシステムによるデータより算出

保険給付費と高額療養費について

高額療養費の保険給付費比較

※ 高額介護合算含む

保険給付	被保険者数 (年度平均)	高額療養費 計		1人当たり額 (円)
		件数	金額 (万円)	
令和4年度	33,560人	24,528件	13億7,121万円	40,859円
令和5年度	31,806人	23,913件	14億2,135万円	44,688円
差異 (R5-R4)	-1,754人	-615件	5,014万円	3,830円

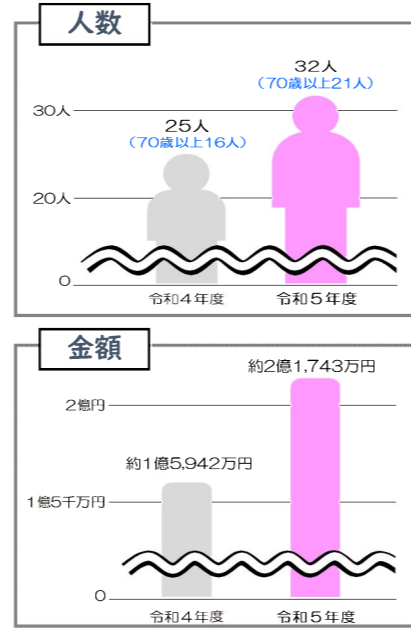
高額レセプト (医療費) の比較

※ KDB抽出データ (厚生労働省基準額30万円以上のレセプト集計)

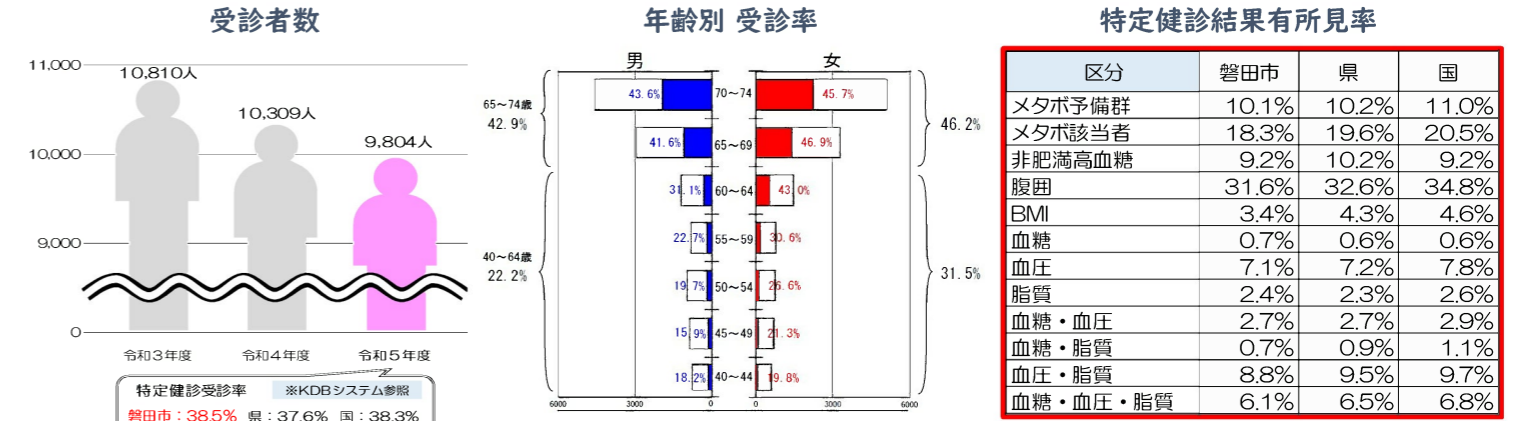
高額レセプト	合計件数	入院件数	外来件数	調剤単独件数	費用額 (医療費) (万円)
令和4年度	8,786件	5,103件	3,653件	30件	59億4,902万円
令和5年度	8,774件	5,011件	3,738件	25件	60億7,412万円
差異 (R5-R4)	-12件	-92件	85件	-5件	1億2,518万円

国保被保険者数の減少に伴い、医療費の総額は減少している中、高額療養費にかかる保険給付費は増加しました。70歳以上の2割負担被保険者の増加や高額医療の診療が増えたことの影響しています。30万円以上の高額レセプトを令和4年度と比較すると約1億2千万増加しました。

※超高額医療について (500万円以上の医療費)

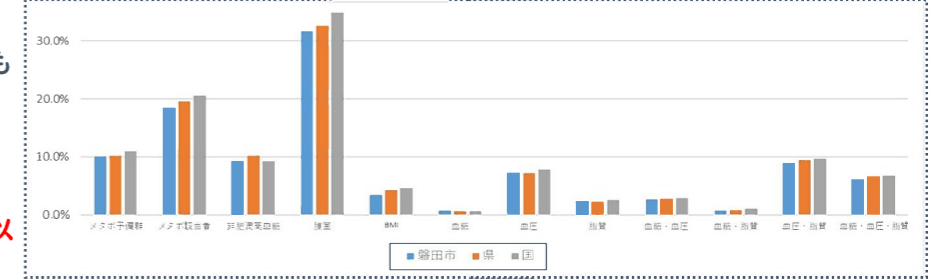


特定健診状況について



国保被保険者数の減少に伴い、受診者数は減少していますが、受診率は国や県平均よりも高い結果となりました。60歳以上の受診率は高めなのに比べ、40代の受診率が低いことが課題です。

また、健診結果所見率より「血糖」の項目以外は国や県の平均よりも低い結果でした。



令和4-5年度 高額医療費 (入院・外来) ランキング

※KDBシステム30万円以上レセプトの集計結果より500万円以上に絞り込み再集計

令和4年度 計: 約 3,832万円

順位	診療月	年齢	区分	費用	主病名	2番目に高い傷病名
1位	R5.3月	50代	入院	約 846万円	循環器系の疾患	心疾患
2位	R4.9月	70代	入院	約 844万円	循環器系の疾患	心疾患
3位	R4.4月	70代	入院	約 710万円	心疾患	循環器系の疾患
4位	R4.4月	70代	外来	約 702万円	貧血	慢性閉塞性肺疾患
4位	R4.7月	70代	外来	約 702万円	貧血	慢性閉塞性肺疾患

約 780万円増加 ※上位5位のみ

令和5年度 計: 約 4,610万円

順位	診療月	年齢	区分	費用	主病名	2番目に高い傷病名
1位	R6.1月	60代	外来	約 1,056万円	神経系の疾患	甲状腺障害
2位	R6.2月	60代	外来	約 1,053万円	神経系の疾患	糖尿病
3位	R5.10月	60代	入院	約 850万円	循環器系の疾患	心疾患
4位	R5.8月	70代	入院	約 842万円	心疾患	循環器系の疾患
5位	R6.3月	70代	入院	約 810万円	心疾患	内分泌、栄養及び代謝障害

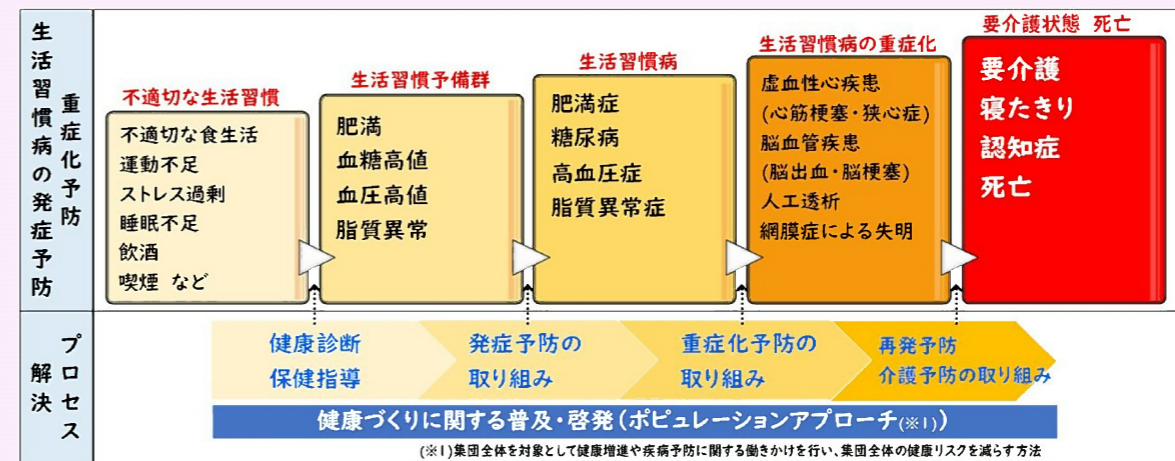
令和5年度は年度後半で高額医療が多く、500万円以上の費用がかかった対象者は延べ32人で、その内60歳未満は2名のみで9割以上が前期高齢者 (65-74歳) の結果となりました。令和4年度と比較して上位5位だけの集計で約780万円増加しました。500万円以上レセプト患者の疾患として、令和4年度・5年度ともに1位が高血圧症 (R4: 13/25人、R5: 17/32人)、2位が糖尿病 (R4: 9/25人、R5: 14/32人) でした。

総括

社会保険適用拡大や団塊世代の後期高齢者医療制度への移行もあり、国保被保険者数及び医療費の総額は減少している中、被保険者の高齢化や医療の高度化の影響もあり1人あたりの医療費は増加しています。

国保被保険者の全体約6割を60歳以上が占める国民健康保険の医療費は、主に生活習慣病関連の疾病が占めていることから、生活習慣病予備群含む40歳以上の対象者へ健康アプローチ、そして生活習慣の改善が重要となり、健康寿命の延伸が持続可能な国民健康保険事業につながります。

はやめはやめの健康管理を1人1人が意識していきましょう。



《分析で使ったデータ等について》

使用したデータ	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年3月～令和6年3月診療分 (令和5年度年報作成データに準ずる) ※ただし、疾病分析はKDBシステムの対象診療月に準ずる 	KDBシステム及び茶っシステム数値について
抽出システム	<ul style="list-style-type: none"> ・KDBシステム (令和5年度累計) ・しずおか茶っシステム ・国保情報データベース3.0 ・令和5年度 国民健康保険事業年報 (令和6年7月報告分) ・令和5年6月～令和6年5月事業月報) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 医科、調剤、DPC、歯科、介護、健診 ✓ 制度: 国保、後期、介護 ✓ レセプトデータはレセプト電算データのみ
参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡県国民健康保険団体連合会 KDB操作研修資料 ・しずおか茶っシステム 操作説明資料 ・公益社団法人 国民健康保険中央会 HP 	<p>KDBシステムで集計された最大医療資源を使用</p> <p>医療レセプトと調剤レセプトを紐付けし点数を合算し (紐づけられない場合は医療レセプトのみを対象とします)、傷病名と医薬品・診療行為・特定器材の紐づけを行い各種マスタの単価より、傷病名ごとに金額を集計します。各レセプトで、一番高い費用を要した病名を最大医療資源病名 (主病) とします</p>

